

### 思考如何活用护理保险⑤

想必很多归国者都会这么想：“离开住习惯了的家去护理设施过日子，这是无法想象的。”话虽这么说，我们最近也开始听说有一些归国者正在寻找可以入住的护理设施。



因此，在这一期里，我们就打算为老年人介绍有关的护理设施，以便接着上一期继续请大家思考一下“当人老需要护理时”及“面临年老的父母需要护理时”，该怎么办。

#### 1. 能够享受设施服务的设施

以前我们给大家介绍过，在护理保险制度中，与“在家服务”并行的，还有一项“设施服务”。所谓设施服务就是指入住下述三类设施，享受其提供的护理服务。

- ① 老人护理福祉设施（特别保健老人之家）
- ② 老人护理保健设施
- ③ 疗养型福利医疗设施（护理型疗养病床）

此三类设施所提供的护理服务分别着重于以生活方面的护理为主；以康复运动为主；及以医疗处置为主三个层面，各有特色。要护理程度被认定为 1～5 的老人，可以任意选择一个上述设施中意欲入住的，通过直接向设施提交申请并与其签合同。而要护理程度被认定为 1、2 的人，则没有资格入住此类设施。

#### ① 老人护理福祉设施

特别保健老人之家是（以特养这个简称）著称的设施，其服务以生活方面的护理为主，面向那些卧床不起或罹患认知症、时刻需要护理而又无法在家获得护理的人。入住后除了可在设施内享受饮食、入浴等日常生活上的照顾（护理）外，还可以接受功能训练（为使因病

### 介護保険の上手な利用法⑤

「住み慣れた自宅を離れて、介護施設で暮らすことは考えられない」というのが多くの帰国者の気持ちでしょう。けれどその一方で、最近、入所できる施設を探しているという帰国者の話を耳にするようになりました。

そこで、今回は高齢者のための介護施設についてご紹介し、「老いて介護を受けるとき」、「老いた親の介護に直面するとき」について、引き続き考えてみていただければと思います。

#### 1. 施設サービスが受けられる施設

介護保険制度には、前回お話しした「在宅サービス」と並んで、「施設サービス」があります。「施設サービス」は、次の3つの施設に入所して受ける介護サービスのことです。

- ① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
- ② 介護老人保健施設
- ③ 介護療養型医療施設（介護型療養病床）

これら3つの施設で提供する介護サービスは、生活面の介護が中心か、リハビリが中心か、医療的処置が中心かなど、それぞれに特色があります。要介護1～5の認定を受けた高齢者が、この中から入所したい施設を選び、直接施設に申し込んで契約を結びます。要支援1、2の人は施設サービスを利用できません。

#### ① 介護老人福祉施設

特別養護老人ホーム（略称は特養）の名で知られた施設で、生活面での介護が中心です。寝たきりや認知症などで常に介護が必要だが、自宅で介護を受けることができない人が対象です。食事、入浴等の日常生活の世話（介護）の他、機能訓練（弱った筋力を取りもどすための訓練）、健康管理などが行われます。医療処置はほとんど行われません。



衰弱の筋肉复原の訓練) 及健康管理, 但基本上不实施医疗处置。还可以长期入住, 因此成为迎接人生最后一秒的“送终之地”。此外, 与其他设施相比, 费用较低, 渴望入住的人源源不断。据说具有上百个排队等候者的设施不在少数。其入住资格不是按先后顺序、而是让要护理程度及紧急性高的人优先入住。

## ② 老人护理保健设施

也被简称为“老健”, 是以护理及康复运动为主要服务内容的设施。病情趋于稳定、无需住院治疗、但需要做康复运动的人可以入住。从支援病患重返家庭生活这一意义上说, 此类设施可谓连接医院与病患其家的中介设施。此类设施的入住时间原则上限定在三个月最长是半年。但因康复运动成功、健康状态得到改善而回到家中的例子在老健极少发生。老健可以重复入住, 因此, 据说暂且回家疗养, 之后再次入住, 或者在一定的期间内辗转多个老健的情况并不罕见。

## ③ 疗养型福利医疗设施

这类设施被称为护理型疗养病床, 是以医疗处置为主的设施。大多设在医院的一角, 所以乍看很难跟医院区别, 但它却是护理保险适用单位。病情处于安定状态, 但需在医疗监管下进行长期疗养或护理的老人可以入住。比如, 需要对病患吸氧、胃造口术(在胃部开一个洞, 通过管子为病患输进水分及流食) 及肠内营养(从鼻子里插入鼻胃管, 经此管子为病患输进水分及流食) 实施管理、以及罹患重度认知症患者等重病患者可以优先入住。国家制定了于 2018 年 3 月底废除护理型疗养病床的计划, 但被认为可以取代这类设施的医疗保险型疗养病床(注 1) 及新型老健(注 2) 的数量还很少, 因此, 这项计划令人担忧。

長期間入所できることもあって、最期の日まで過ごす「看取りの場」にもなっています。また、他の施設に比べれば費用が安いということもあり、入所希望者が引きも切りません。入所待ちの人が何百人もいる施設も珍しくないそうです。入所は先着順ではなく、介護の必要度や緊急性が高い人が優先されます。

## ② 介護老人保健施設

老健という略称をもつ、介護やリハビリが中心の施設です。病状が安定し、入院治療の必要はないが、リハビリが必要な場合に入所できます。家庭で生活していけるように支援するという意味で、病院と自宅の間をつなぐ中間施設です。原則として、入所期間は3ヶ月から長くて半年程度と限られています。しかし、多くの老健では、リハビリが成功し、健康状態が改善して自宅へ帰るケースは少数です。再入所ができるということもあり、一旦退院して自宅で療養後、再び入所したり、一定期間毎にいくつかの老健を転々とするケースが珍しくないそうです。

## ③ 介護療養型医療施設

介護型療養病床とも呼ばれ、医療が中心の施設です。病院等の一角に設けられていることが多く、一見して病院との区別がつきませんが、介護保険が適用される施設です。病状が安定し、定期的あり、医学的管理の下で、長期間にわたる療養や介護が必要な高齢者が入所します。例えば、酸素吸入、胃ろう(胃にあけた穴からチューブで水分や流動食を注入) や経管栄養(鼻から胃にチューブを入れて水分や流動食を注入) などの管理が必要な場合や、重い認知症など重度の方が優先されます。国は 2018 年 3 月末までに介護型療養病床の廃止を計画していますが、これに代わる施設と目

※注 1：医療保険型療養病床・・・是功能与护理型療養病床很接近，但可适用的不是护理保险、而是医疗保险的医院。

注 2：新型老健・・・是护理疗养型老人保健设施的简称。与以往的老健不同，可以享受医疗服务，也可以进行长期疗养，但国内这类设施的数量很少。

## 2. 享受设施服务时需自行支付费用

享受设施服务的费用为：除了负担一成设施服务费以外，还需支付住宿费、伙食费及日常生活中的各种杂费（理发费等杂七杂八的费用）之合计金额。

施設サービス費の 1 割 一成施設サービス費	+	居住費 住宿费	+	食費 伙食費	+	日常生活費 日常生活諸雑費	=	自己負担 自行負担
---------------------------	---	------------	---	-----------	---	------------------	---	--------------

※施設サービス費因要护理程度、房间类型及工作人员人数之不同而不尽相同。

※住宿费及伙食费亦因各设施的不同而不尽相同。

只是，有着面向低收入者的负担轻减制度。

### ○ 高额护理服务费制度

即为了将自行负担的一成设施服务费控制在一定的数额内，根据病患收入设定其必须交付的那一成费用之上限额。顺便说一下，享受支援付给（生活保护亦同）的人，一个月的负担金额上限额为 15000 日元。

### ○ 特定入住者护理服务费制度

根据病患收入对住宿费及伙食费金额予以轻减的制度。享受支援付给及生活保护者的负担金额上限如下：

・住宿费：多人房（2～4 人房）的话每天 0

される医療<sup>ほけん</sup>保険<sup>しんがた</sup>型療養病床（注 1）や新型<sup>しんがた</sup>の老健（注 2）は、数<sup>かず</sup>が少<sup>すく</sup>ないことが懸念<sup>けんねん</sup>されています。

※注 1：医療<sup>ほけん</sup>保険<sup>しんがた</sup>型療養病床…介護<sup>やくわり</sup>型療養病床と役割<sup>やくわり</sup>は似ているが、介護<sup>やくわり</sup>保険<sup>ほけん</sup>ではなく、医療<sup>ほけん</sup>保険<sup>しんがた</sup>が適<sup>てき</sup>用<sup>よう</sup>される病院

注 2：新型<sup>しんがた</sup>の老健…介護<sup>やくわり</sup>療養<sup>りょうやう</sup>型老人<sup>じゅうらいがた</sup>保健<sup>ちが</sup>施設の略称<sup>りやくしょうめい</sup>。従<sup>しゅうらいがた</sup>来<sup>ちが</sup>型<sup>ちが</sup>の老健<sup>ちが</sup>と違<sup>ちが</sup>い、医療<sup>いりやく</sup>サービ<sup>さ</sup>スが受<sup>う</sup>けられ、長<sup>なが</sup>期<sup>き</sup>にわたる療<sup>りょう</sup>養<sup>やう</sup>が可<sup>か</sup>能<sup>のう</sup>だ<sup>が</sup>、全<sup>ぜん</sup>国<sup>こく</sup>的<sup>てき</sup>に数<sup>かず</sup>が少<sup>すく</sup>ない。

## 2. 施設サービスを利用する場合の自己負担

施設サービスを利用したときの自己負担は、施設サービス費<sup>いちわり</sup>の 1 割<sup>きよじゅうひ</sup>の他<sup>しよく</sup>に、居<sup>い</sup>住<sup>ぢゆう</sup>費<sup>ひ</sup>、食<sup>しょく</sup>費<sup>ぱい</sup>、日<sup>にち</sup>常<sup>じょう</sup>生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>上<sup>じょう</sup>の雑<sup>ざつ</sup>費<sup>ぱい</sup>（理<sup>り</sup>容<sup>りよう</sup>代<sup>だい</sup>そ<sup>た</sup>他<sup>た</sup>諸<sup>もろ</sup>々<sup>もろ</sup>）の合<sup>ごう</sup>計<sup>けい</sup>金<sup>きん</sup>額<sup>がく</sup>です。

※施設サービス費は、要<sup>よう</sup>介<sup>かい</sup>護<sup>ご</sup>度<sup>ど</sup>、部<sup>へ</sup>屋<sup>や</sup>の種<sup>しゆ</sup>類<sup>るい</sup>、ス<sup>す</sup>タ<sup>た</sup>フ<sup>ふ</sup>の数<sup>かず</sup>などによ<sup>よ</sup>つて違<sup>ちが</sup>う。

※居<sup>き</sup>住<sup>じゆう</sup>費<sup>ひ</sup>や食<sup>しょく</sup>費<sup>ぱい</sup>につい<sup>つ</sup>ても、施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>毎<sup>まい</sup>に違<sup>ちが</sup>う。た<sup>た</sup>だ<sup>だ</sup>し、所<sup>しょ</sup>得<sup>とく</sup>が低<sup>ひく</sup>い人<sup>ひと</sup>のた<sup>た</sup>め<sup>め</sup>には負<sup>へい</sup>担<sup>たん</sup>軽<sup>けい</sup>減<sup>げん</sup>制<sup>せい</sup>度<sup>ど</sup>が有<sup>あ</sup>ります。

### ○ 高<sup>こう</sup>額<sup>がく</sup>介<sup>かい</sup>護<sup>ご</sup>サービ<sup>さ</sup>ス費<sup>ひ</sup>

施設サービス利用<sup>りよう</sup>料<sup>りょう</sup>の 1 割<sup>いちわり</sup>負<sup>おつ</sup>担<sup>たん</sup>が<sup>が</sup>大<sup>だい</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ないよ<sup>よ</sup>うに、所<sup>しょ</sup>得<sup>とく</sup>に<sup>に</sup>応<sup>お</sup>じ<sup>じ</sup>て 1 割<sup>いちわり</sup>の自<sup>じ</sup>己<sup>ぎ</sup>負<sup>おつ</sup>担<sup>たん</sup>額<sup>がく</sup>に上<sup>じょう</sup>限<sup>げん</sup>が<sup>が</sup>設<sup>せ</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。ち<sup>ち</sup>な<sup>な</sup>み<sup>み</sup>に支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>給<sup>き</sup>付<sup>ふ</sup>（生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>も<sup>も</sup>同<sup>どう</sup>じ）を<sup>を</sup>受<sup>う</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>の場<sup>ば</sup>合<sup>あ</sup>い、一<sup>い</sup>か<sup>か</sup>月<sup>げつ</sup>の負<sup>おつ</sup>担<sup>たん</sup>限<sup>げん</sup>度<sup>ど</sup>額<sup>がく</sup>は 15000 円<sup>えん</sup>です。

### ○ 特<sup>とく</sup>定<sup>てい</sup>入<sup>にゅう</sup>所<sup>しょ</sup>者<sup>しや</sup>介<sup>かい</sup>護<sup>ご</sup>サービ<sup>さ</sup>ス費<sup>ひ</sup>

居<sup>い</sup>住<sup>ぢゆう</sup>費<sup>ひ</sup>と食<sup>しょく</sup>費<sup>ぱい</sup>につい<sup>つ</sup>ても、所<sup>しょ</sup>得<sup>とく</sup>に<sup>に</sup>応<sup>お</sup>じ<sup>じ</sup>て自<sup>じ</sup>己<sup>ぎ</sup>負<sup>おつ</sup>担<sup>たん</sup>分<sup>ぶん</sup>が<sup>が</sup>減<sup>げん</sup>額<sup>がく</sup>され<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>す。支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>給<sup>き</sup>付<sup>ふ</sup>や生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>を<sup>を</sup>受<sup>う</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>場<sup>ば</sup>合<sup>あ</sup>い、負<sup>おつ</sup>担<sup>たん</sup>限<sup>げん</sup>度<sup>ど</sup>額<sup>がく</sup>は<sup>は</sup>次<sup>つぎ</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>す。

- ・居<sup>た</sup>住<sup>しやう</sup>費<sup>つ</sup>：多<sup>た</sup>床<sup>しやう</sup>室<sup>つ</sup>（2～4 人<sup>あい</sup>の相<sup>あ</sup>部<sup>い</sup>屋<sup>や</sup>）の場<sup>ば</sup>合<sup>あ</sup>い、一<sup>い</sup>日<sup>にち</sup> 0 円
- ・食<sup>しょく</sup>費<sup>ぱい</sup>：一<sup>い</sup>日<sup>にち</sup> 300 円

日元

・伙食費：每天 300 日元

只是，不办理申请手续则无法享受轻减制度，敬请注意（获得批准后倒算至提交申请那个月的第一天起开始实施轻减）。

设施服务费的一成负担份 15000 日元与伙食费（300 日元×天数）是由支援付给制度直接支給经营设施的方面。因此，获准享受支援付给的人实际上只需支付除此之外的「日常生活诸杂费」。

上述各项制度还有着各种各样的细碎规定，如有不明白的地方，敬请通过支援商谈员向市区町村护理保险课咨询。

### 3. 寄予孩子一代的期待

我们在这一期里给大家介绍了可以享受护理保险设施服务的设施。想必大家已经领悟到在现有状态下，要找到一所可以把家人放心托付出去的设施是很不容易的。万一面临要为家人寻找护理设施时，最好是借助周围人的帮助、听取其建议，并与包括本人在内的家人好好商榷慎重决定。遗憾的是，包括懂汉语的工作人员在内，目前我们很少听说哪家设施可以使用汉语或是按照中国文化来护理入住者。今后，在各地区如何增加了解归国者想法与生活，能够整合环境让归国者入住的护理设施，乃是一个紧急而重要的课题。与此同时，万一您亲爱的父母有一方不得不入住护理设施时，我们希望作为家人，您能够对面临着孤独与寂寞的父母尽全力为其提供支撑。在以亲孝德行为美德的中国社会，这或许是理所当然的，但在属于异文化社会的日本，孩子们所能尽到的义务，可谓更加重大。(H)

ただし、申請しなければ軽減措置は受けられないので注意が必要です。（申請を受け付けた月の初日に遡って適用開始）

施設サービス費の自己負担分 15000 円と食費（300 円×日数）は、支援給付制度（生活保護制度）から直接事業者側に支払われます。したがって、支援給付を受けている人が、実質上負担するのは、その他「日常生活に必要な諸々の費用」となります。

上記のような制度には、いろいろ細かい規定があります。わからないことは、支援相談員などを通じて、市区町村の介護保険担当課に尋ねてください。

### 3. こども世代に期待されること

今回は、介護保険の「施設サービス」が適用される施設についての話でした。現状では、安心して家族を託せる施設を見つけるのは、容易ではないことがお分かりいただけたと思います。万一、入所施設を探す事態に直面したときは、周囲の人の助力やアドバイスを得ながら、ご本人を含め家族で慎重に検討しましょう。残念なことに、目下のところ、中国語ができるスタッフの存在を含め、中国語や中国文化に対応できる入所施設の話は、あまり聞こえてきません。今後、地域の中で、帰国者への理解があり、受け入れ環境を整えてくれる施設を、どうやって増やしていくかは、緊急且つ重要な支援課題です。その一方で、万一あなたの大切なご両親のどちらかが、施設に入所した場合は、寂しさや不便さとお向き合う親御さんを、家族としてできるかぎり支えていくことが期待されています。親孝行を美德とする中国社会では当然のことかもしれませんが、異文化社会の日本にあっては、なお一層、こども世代の役割が重いといえるでしょう。(H)